

<白金標準、JM 社プラチナ需給は 9.8 トン供給不足・・・>



(出所：オアシス)

米国のインフレ指標である消費者物価指数（CPI）や生産者物価指数（PPI）の発表では、インフレ高を示す予兆を見せ、来年早期に利上げの可能性が高まりを見せている。特に事実上のホルムズ海峡の閉鎖が長期に渡り実施される可能性が高く、WTI 原油先物は一時 105.49 ドルまで高値を試すなど、エネルギー価格は高止まりを見せている。そのため世界的なインフレ懸念が高まりを示し、各国の国債が売られ、金利上昇が加速している。特に米国 10 年債は、週末には 4.5% を超え 4.603% まで上昇しており、株価や金価格を押し下げる動きへ影響している。特に白金市場は、18 日からロンドンで開催されるプラチナウィークを前に JM 社が前倒しで PGM マーケットレポートを発表し、2026 年のプラチナ需給バランスは 9.8 トンの供給不足と示唆し、2024 年から 3 年連続の供給不足を示唆している。しかし 2025 年の 29.4 トンの供給不足から比べ 19.6 トンの改善を示したことから、白金標準先物は 10934 円をピークに金利高に抑えられ 9913 円まで下落している。しかし本日には WPIC の需給報告が控えており、前回の 7 トンに供給不足を上回る内容になると下げ渋る値動きが強まり、9750 円以下は巻き戻しの値動きに備えるのが妥当に思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が切利下げ、**シグナル** は維持している。RCI では **短期** が下げながら、**長期** は切り下げている。特に指数平滑移動平均線を日足が下回っており、9500 円に向けた値動きに注意が必要に思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,125,000 円(2026 年 5 月 18 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 112,200 円(2026 年 5 月 18 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>